

平成元年 “春” ——工事のこと——

入園者の比較的少ない冬に毎年動物園は、動物が快適に過ごせ、観察しやすい動物舎にするための工夫や破損した箇所をの修理をしたり、新しい動物舎を建築するなど、春の行楽シーズンにお越しになった皆さんに十分楽しんでいただけるように備えます。今年も、サル島の改修などに取組みました。

ところが、いつもの冬ですと、動物園の工事でご近所の皆さんにご迷惑をおかけするのですが、今年も立場が逆になったようで、東側では「疏水記念館建築工事」、「スタンフォード大学日本センター建築工事」、西側では「広道橋架替工事」、「美術館庭園整備工事」と大きな工事に挟み撃ちにあっています。動物たちは言うに及ばず、職員もこれだけの工事を園の周辺で同時に実施されるのは初体験で、工事による諸問題の対策に知恵を絞って取組んでいます。いずれの工事も京都市の市制百周年や国際化に対する積極的な取組みの表れであり、それぞれが重要なものです。

動物園にこられた方々に、ご迷惑をおかけするかも知れません。とくに、橋の工事で園の入口の車道が封鎖されていて、ご不自由をおかけしていることと思いますが、動物園を含めた岡崎公園とその周辺が生まれかわり、多くの市民の皆さんに利用していただける場所となるためのひとつの過程ですので、あとしばらくご辛抱いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

完成したサル島



で き こ と

★ from 平壤中央動物園★

チョウセンオオカミ(メス)とカササギ6羽が来園。先住のオスとの仲もうまくいっています。

★ to 繁殖シーズン★

平成元年のトップを切ってライオン3頭、続いてニッポンツキノワグマ2頭が誕生。にぎやかな動物園の春の幕開けです。

★孔雀 with バーラル★

インドクジャクが4羽、新しく仲間入り。バーラル家族と同居しています。

最近、おっかなびっくり逃げ回っていたのは、体の大きなバーラルのほうでした。

★ in おとぎの国★

12月18日ウールボール大会(本園産の羊毛を使ってのボール作り) 1月16日動物鳴き声カルタ会(録音した動物の声を聞いて、かわいいイラストの絵札を取る)を開催。見るだけでなく、参加する動物園を楽しんでいただきました。

新装 サル島 堂々完成!!

当園のサル島は、昭和12年に完成の後、52年間の永きにわたり皆様に親しまれてきましたが、この長い歳月の間にサル島は老朽化してしまったため、改築することとなり、装い新たに今年4月に生まれ変わりました。以前のサル島は、山あり谷ありといった自然感の強いものでしたが、新しいサル島は、幾何学的でアスレチック感覚に富んだデザインで、サル島と呼ぶのはふさわしくないかもしれませんが、アカゲザルの一挙一動がより見やすくなるよう工夫しました。

そこで、このページでは、同じように見えて、実は非常に個性豊かな居住者を紹介することにし

ました。さて写真の顔と見くらべて、名前がわかったサルは何頭いますか？

※ 個体識別をするポイントはZooスポットを参考にしてください。

※ 各個体には、個体番号を一の位は左胸に、十の位は右胸に墨汁でマーキングしています。

(記号と数字の対比は下の通りです)

— | ⊥ ⊃ ⊂ ⊔ ⊕ < >
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

また、100番は右眼の下に●、200番は左眼の下に●、300番は胸の中央(記号の上中央部分)に●のマーキングをしています。

サル島(アカゲザル)名鑑



No.6
ロック ♀
1970.11.04到着
島一番のスリムなおばあさん。



No.22
ヘチャ ♀
1970.11.04到着
順位の低いサルで脱毛が著しい。



No.36
チャイ ♀
1970.11.18到着
顔黒で、体が太くアカゲザルの朝顔といった感じです。



No.7
コウタロー ♂
1970.11.04到着
先代のボス。メスからの支持は、いぜんNo.1のオス。



No.23
タキ ♀
1970.11.08到着
メスのNo.1(メス頭)、ボス以外は手を出しません。



No.52
テコ ♀
1973.04.01生
人慣れNo.2、担当者から手渡してエサをもらうことができます。



No.8
キンタロー ♂
1970.11.04到着
人に対して、離れていると威嚇し、近づくと逃げる意気地なし。



No.25
モン ♀
1970.11.08到着
人慣れしたサルでエサの時は1番にエサを取りにきます。



No.55
ユキ ♀
1973.04.01生
チャイの子で、肝っ玉かあさん。手術の痕の2段腹が迫力満点です。



No.14
モコ ♀
1970.11.04到着
人見知りが強く、見ようとすると、すぐ隠れてしまいます。



No.26
メシロ ♀
1970.11.04到着
おとなしいサルです。もめ事がきらいで、その場には絶対にいません。



No.74
センブリ ♀
1973.04.01生
人が目をパチパチすると、舌を出して目をパチパチして応えます。



No.87
パーコ ♀
1975.07.04生
モンの子だから人慣れしています。でもこの記念写真では最後まで撮らせてくれませんでした。



No.126
イソコ ♀
1978.04.15生
ロックの子で、親に似てスリムです。



No.277
コビタキ ♀
1984.04.20生
タキの孫。家系の七光りで体が小さいのにNo.2にのし上がりました。



No.91
バッタ ♀
1975.03.30生
意地悪ばあさん。順位の高い方のサルです。



No.140
ショータロー 公
1978.06.02生
次期ボス候補。精悍さはNo.1。はたして次のボスに成る事ができるか？



No.311
デコ ♀
1985.06.04生
テコの子。ポッチャリな母親に似ずスリムです。



No.94
タワシ ♀
1975.04.08生
ヘチャの子。名のごとくタワシの様な毛で、説毛が激しい。



No.176
コゼン ♀
1980.05.03生
ウゼンの子。サルには強いが、人には弱いサルです。



No.314
ビート ♀
1985.04.11生
ロックの子で、イソコの妹。スリムな家系にもかかわらず、ポッチャリ型。



No.96
ウゼン ♀
1975.07.14生
名のごとく右眼がありません。でもNo.3の強いサルです。



No.199
バンコ ♀
1981.04.26生
ウゼンの姪っ子。子をあやすのがじょうずなサルです。



No.320
ブルース ♀
1985.05.08生
転落事故の時、母親が身を置し、死をかけて助けた子です。



No.100
オスミ ♀
1976.04.13生
ユキの妹。体形・顔とも良く似ています。



No.202
スマイル ♀
1981.05.01生
サル島始まって初の双子。いつも妹のパンジーといっしょにいます。



No.346
トンコ ♀
1986.05.10生
トンペーの妹。昨年生れの子を除けば、最も若いサルです。



No.101
コロッケ ♀
1976.05.10生
落ち着きなく、チヨコマかとして、ケンカの仲間入りをするのが好きなサルです。



No.210
トンペー ♀
1981.04.29生
初産の時、自分の子と母親の子をいっしょに育て上げた偉大なサルです。



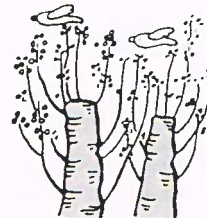
No.108
アオ ♀
1976.05.09生
バッタの妹。このサルも意地悪で、トラブルメーカーです。



No.212
パンジー ♀
1981.05.01生
スマイルの双子の妹で、スマイルよりひとまわり小さい。双子でもそんなに顔は似ていません。



この他に、昨年生れの、まだ名前のついていない14頭の子ザルが仲間に加わります。





サル島に魅了されて 一現役担当より―

飼育員歴14年。ゾウに始まって、現在サル島・ホッキョクグマ・フクロウ類を担当して5年目の担当者。

ホッキョクグマの人工哺育や、シロフクロウの繁殖成功など、話題の多い人ですが、今回は特にサル島にしばって話を聞きました。

★★★★★★★★★★★★

サル島を担当すると、まず、個体識別ができるようになる必要があります。サルたちには、それぞれ番号がつけられており、眼下・胸に記号化してマーキングしています。また、3歳以上の成獣には、ユニークな名前もつけられており、日報や記録に活用しています。サルたちの健康管理をするのに、これらを覚えておくことは不可欠です。

そこで、彼の個体識別法攻略対策。

Lesson 1. よく受験生が使う単語帳。あれに、番号・名前・特徴を書き、頭の中にたたき込みます。

Lesson 2. 毎日1時間じっくり観察。前任の担当者に解説してもらいながら、その個体を認識・確

認できるまで、目で追います。

Lesson 3. 家庭で、サルたちの胸の記号と同じカードを作り、奥さんにそれを持って素早く動かしてもらい、見きわめる訓練。

こうして、執念(?)の記憶作戦が突って、最低3カ月はかかるといわれている個体識別を1カ月でマスターしてしまったという、努力の人です。

ところで、当のアカゲザルたち、この担当者が観客用の柵ごしに上からのぞいただけで、警戒警報を發して群れで位置を変えると云います。あれだけ毎日世話をしている(日課の清掃・給餌はその広さ・量のため、かなり単調で飼育係員間でも敬遠されがち)のに? いわく、"人間になつかせてはいけぬ"のだそうです。普段なら、ひとなつこいのはまわりから見てもほほえましいのですが、繁殖期やそれに伴う感情の不安定な時期は、そのはげ口を人間にぶつけてくるようになるため、危険なのだそうです。それで、わざとなつかせないようにしているのだとか。

★★★★★★★★★★★★

さて、新サル島誕生に際して担当者からみどころのポイント・アドバイス。

約4カ月間"個室"である狭いケージに入れられていたサルたちが、全容を一新し、まるっきり未知の世界となった新島でどの様な動きをするか。加えて、旧島でのボスがいない、統率者未定の状況下でどの様な動きをするか…… 注目してください!!



サル島の思い出

歴代サル島担当者に聞く ①

サル島ができて以来、担当してきた人は約20人。そのうち、現在も当園にいる人に、サル島担当時代の心に残るべきことを、聞き集めてみました。

★さかのぼれる範囲での最古参は、昭和45年頃。数種類の雑居島だったのが、現在のアカゲザル島に変わった当初のこと。

出身もバラバラで、寄せ集められたため、まだ群れとしてまとまりのない、不安定な状態でした。最初の3年間くらいは出産も少なく、生まれた子もあまり育たず(担当者は人工哺育に忙しかった)ほとんど毎日、負傷したサルの絶えることがありませんでした。

そんなある日の朝。すでにボスとしての位置を確立していた「コウタロー」と、さほど上位ではない「キンタロー」が、血まみれの闘争。双方ともに、かなりの傷でしたが、70数針も縫う重傷を負ったのは、意外やコウタローの方でした。なぜ? そんなことに……

他の個体に致命的な傷を負わせることのないよう、サルが一番の武器である犬歯をコウタローだけは、切除されていたためでした。

2週間ほど別飼にして治療されましたが、そのまま島に戻せば、またキンタローにやられるのは目に見えていたため、ボス=コウタローで島が安定するまで、今度はキンタローが別飼にされました。

野生下と違い、逃げ場のないサル島の中で群れを維持・管理していくには、ボス交代劇にも作為的な介入をせざるを得ないときもありました。

★初代メス頭「モサ」。いつも、ボスの近くに陣取り、その3メートル以内には他のサルは近付けないほどの権勢を誇っていました。

ところが、そのモサがある日突然、下位の小さなメスにまで攻撃されるようになり、当園から出ていくはめになりました。

転落劇の原因は定かではありませんが、来園当初まだ若い個体が多かった中、モサは既にかんりの海千山千で、強そうな若いオスに取り入って、メスNo.1の地位を手に入れたようです。しかし、モサ自身がさほど実力のある個体ではなかったこと、また上記のような経緯もあって人望ならぬサル望もなかったことなどから、何かのきっかけでその緊張関係がぶつ切り切れたものと推測されています。

★比較的新しい話。コウタローのボス引退も近づき、かなり弱くなってきている時期のことですが、次期ボスをねらう若オスがコウタローを攻撃してくると、取り巻きのメスたちがコウタローに加勢し、助けていました。ボスとして君臨するには、メスの人気あるいは支持なくしてやっていけません。

★「個」対「個」に始まる闘争は、しばしば「一族」対「一族」のにらみ合いに発展します。血縁関係は強力なきずなですが、家系の異なる一族間では険悪になることも多いようです。ところが、外敵ができると家系・血縁を超えて協力体制をとります。

1羽の負傷したカラスが、サル島の中に舞い降りたことがありました。日頃、仲の良くないサル同士も寄り添い一致団結して、対カラス・シフトがとられたのでした。

まだまだあふれるサル島物語。次回も、引続きご紹介したいと思います。

■第69号の発行は8月1日(火)の予定です。
■定期購読を希望される方は、62円切手4枚(1年分)を同封して京都市動物園までお申込み下さい。

動物園だより No.68 編集・発行人 野口義夫
発行所 京都市動物園
京都市左京区岡崎法勝寺町 TEL.075(771)0210・0211